

地域の将来像:住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

H27.12.15
第23号

明日の小山田を考える会の目的は、**住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創る**ことです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

小山田振興センターの改築等に係る整備の必要性について

今年度の総会で「振興センターは防災上の避難所として不適切である」、「振興センターの移転」という意見があったことを踏まえ、明日の小山田を考える会では役員会及びワーキンググループを開催し、今後の方向性について協議しました。

役員会（8月3日開催）

- ①振興センターは前後急斜面になっていて、避難所としては不安。
- ②旧小山田小学校跡地に振興センターを建設できれば理想。（保育園併設も視野に入れる）
- ③耐用年数からみて振興センター新築は時間がかかる。まずは今ある施設をきちんと整備し活用していくこと。
- ④地域にシンボリックな建物があれば生涯学習にも変化ができる。
- ⑤旧小山田小学校跡地に電気や水道を最低限整備したら活動範囲が広がる。
- ⑥避難所は避難者に合わせ使い分けをするとよい。例えば高齢者はきぬかわデイサービス、子ども連れは保育園など。
- ⑦子供から高齢者が集まれる複合施設をつくる。
- ⑧更に具体的に協議するため、ワーキンググループを設置することとした（三役、総務部・教育振興部各部長、副部長、市議等15名）。以上のような意見がでました。

ワーキンググループ（9月8日開催）

- ①振興センターの耐用年数（軽量鉄骨造）は約40年。耐震調査については法的に該当しない。
- ②旧小山田小学校跡地を地域の憩いの場にしたい。
- ③振興センター駐車場の立地が悪い。
- ④旧小山田小学校跡地に施設を建設した際、活用する人数や頻度に疑問がある。
- ⑤市では保育園の民営化について検討している。
- ⑥地域に憩いの場や公園等が欲しい。
- ⑦地域の資材及び労力を提供し、建設することがいいのではないか。
- ⑧交付金等の積立などで建設資金をつくることは可能か。
- ⑨中山間地管理組合や地区公民館より建設資金を募れないか。以上のような意見がでました。

役員会（10月8日開催）（過日の会議で出された意見の方向性について協議）

- ①旧小山田小学校跡地への振興センターの建設は、交付金の使途について制約があり、積立などは困難な状況。財源の問題が一番のネックである。
- ②保育園については民営化を前提として、その後統廃合の計画になることが予想されるため、複合施設を考えていたが取り組むのは難しい。

結論は次ページに記載。

【結論】明日の小山田を考える会では、

- ①旧小山田小学校跡地の活用及び振興センターの移転については今後とも検討課題としていく。
- ②当面は振興センターの整備に重点をおいた方針にしていきたい。
- ③旧小山田小学校跡地の公園化については、地域の皆さんのご意見を聞きながら検討していきたい。

平成27年度市政懇談会を開催しました

去る11月20日（金）小山田振興センターにおいて、平成27年度市政懇談会が開催され、花巻市からは上田市長はじめ10名の職員が出席されました。小山田地域の懇談テーマのほか、フリートークでも活発な意見が出されました。概略は以下のとおりです。

詳細は後ほど花巻市ホームページ等で公表される予定です。

No.	内容（概略）	回答（概略）
1	旧小山田小学校跡地は、現在花巻市で管理されているが、地域では旧小山田小学校跡地の活用について数回にわたり話し合いを重ねてきた。 保育園と併設した複合施設、シンボリック施設及び公園としての活用を望む意見が多数を占めた。 花巻市として今後、跡地の活用をどのようにお考えか。	具体的な活用策は持ち合わせていないことから、地域一体となって活用を考えていきたい。
2	いじめ問題が大きな社会問題になっている。また、2014年度の全国の児童虐待件数は、8万8931件と報じられている。花巻市の現状はどのようになっているのでしょうか。	文部科学省が行った平成26年度の問題行動調査では、いじめは小学校11件、中学校9件。但し重大な問題はない。 児童虐待に関する相談件数は、身体的20件、ネグレクト9件、心理的11件、性的0件。平成25年度に比べ増加傾向。
3	カズクリは国指定の天然記念物で、市の助成をうけ地元で管理している。現在の敷地は狭く、専門家からは移植の方がよいとの指導があった。文化庁へ連絡及び費用等も含め対応方法を考えて頂きたい。	教育委員会で検討する。
4	小山田振興センターは避難所としてはふさわしくない。保育園も併設しているので、一緒に旧小山田小学校跡地へ移ったらどうか。	小山田振興センターは昭和58年度建築なので、まだ使えると判断できる。また、地盤は地震に強い岩盤である。昔、村役場などがあった場所で、小山田地域の拠点だった。 湯口中学校や大迫中学校の耐震整備など優先的な課題が多いため、当面は計画できない。現在、公共施設全体の管理計画を策定中であることから、新しく施設を整備するという状況ではない。
5	消防協力隊は人員不足で一人で何年もやらなければならない地域もあるが義務なのか。また協力隊はどこまで必要とされているのか。	消防団の支援という位置づけである。 炊き出しや火防点検での女性の視点・協力は必要であると考える。



発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941
HP：<http://www.asuno-oyamada.jp/>
(ホームページもご覧下さい。)